

求める会ニュース No. 971

11月全体会報告

11月20日(水) 10:00~12:30

【検討事項】

1. 会の今後に向けての具体的な動きについて

10月25日に卵の生産者・足立さんと今後に向けての話し合い。足立さんは現在2000羽ほどを飼っている。現在も50~80個単位で個人に出荷していて、定期的でなくとも注文すれば送ってもらえる。配送費は700円くらい。(3面参照)

2. 収穫感謝祭の感想及び反省(3面に報告)

今年もマルシェ形式での開催。コンサートが楽しかったという声が多く寄せられた。

*イートイン=おにぎりは100円の予定だったが小さかったので急遽50円に。みそ汁(100円)は具がたくさんでおいしかった。

*喫茶=今年はお手伝いの人が少なく、会場設営には力も要るので大変だった。ケーキ類は人気で、買って帰りたいという人に売ったが、喫茶で売るといのはどうだったろうか。

現金のやりとりは人手もいるし、喫茶券はあった方がいい。

*弁当=むすび食堂(50)、ももんが(40)、ひなび食堂(20)全110食。一つ800円で完売。弁当にも材料などラベルをつけた方がいいのではないか。

*市島野菜=一色さん夫妻、橋本さん夫妻、留学生2名。野菜は単価100円で完売。

*米、小豆=高木さん、池野さん。5分づきが樹1杯100円でよく売れた。小豆は200g 700円で完売。

*あしの会=牛乳、バターなどあしの会価格で販売。

*影山製油所=菜種油5、紅花油5、胡麻油5、胡麻生絞り3が完売。もう少し多くてもよかったのではないかな。

*葉香製茶=緑茶も紅茶もたくさん試飲用を作って下さった。たくさん売れたとのこと。

*大徳醤油=瓶類は重いからか売れ数が少な

かった。「山椒有機野菜ソース」を半額で出されていた。

*俵養蜂場=加古川、六甲山の蜂蜜、巣の真ん中と隅っこの方を詰め合わせたもの3種類を用意。フランスパンにつけて試食してもらった。

*事業部=いりこ、干しいたけ、生しいたけ、かえりちりめんなど全体的によく売れた。

*果物=リンゴ、ミカンが完売。高木さんからいただいた花柚子も完売。

*ミカンジュース=お目当ての子供が少なく、大人の男性が飲んで、ミカンジュースがこんなにおいしいとはと、好評。

*即売品=ケーキ、佃煮などほぼ完売。品物に張るシールが小さく材料など十分に書けなかった。

*フランクフルト=大人が多く、好評で、完売。

*学習研究部=喫茶室でゲノムに関する展示をし、反対の署名もお願いした。

*受付=生産者35人、一般の来客93人、会員64人。食券があった方が食堂や喫茶室があると分かってもらえるのではないかな。

3. ゲノム編集の講演会への協力金について

・講演会の名称: 有機農業の集い ・講師: 天笠啓祐さん ・日時: 2020年1月18日(土) 午後 ・場所: ラッセホール(元教育会館)

・参加費: 500円 100人規模を予定。

求める会から2万円拠出することを賛成多数で決定。

4. 影山製油所からのクラウドファンディング協力依頼について

11月20日現在、15万円ほど集まっている。

【報告事項】

◎生産者担当 ・野菜 今年台風被害もなく端境期が無かったが、高温多湿で虫の被害が多い。これから大根、小かぶ、人参、さつまいも、さと芋、葉物、白菜など出荷される。

・米 土壌調査を終え肥料を入れる準備をしている。(高木さん)

・大豆 葉が枯れてきた。順調に出来ている。

・果物 リンゴ、ミカンを配送中。小松さんの

長芋は気温が高くて種芋がだめになってしまったので今年はない。

◎広報、庶務 ニュース 12月号の印刷日は11月27日(水)

◎学習研究部 大豆畑トラストの収穫感謝祭
11月23日 市川町で。

◎その他 ・「いわきの初期被曝を追及するママの会」へリンゴを贈りました。

・芦屋市宮塚公園でのマルシェ賑やかに終わりました。ご協力ありがとうございました。

◎お知らせ ・食料環境セミナー、12月は休み。 ・12月全体会は18日(水)

食料環境セミナー報告

「有機農業で未来を拓く

一身土不二（地元のものを食べて健康に）で自然と共に生きようー
國學院大学名誉教授 大崎正治さん
10月23日(水) 10:30-12:00

A. 有機農業の意味と意義

2006年、有機農業推進法が制定されたが、日本有機農業研究会ではその前から有機農業に関する基礎基準を定めていて(2000年)、その定義は「生産から消費までの過程を通じて化学肥料・農薬等の合成化学物質や生物薬剤、放射性物質、遺伝子組み換え種子及び生産物等をまったく使用せず、その地域の資源をできるだけ活用し、自然が本来有する生産力を尊重した方法で生産されたもの」とある。

この中の「地域の資源を活用」が特に大事である。有機農業は「安全でおいしいものを作る」と同時に「土と水の環境を守る」ことまでも考えないといけない。土の微生物の働きは水をきれいにし、その地域の食物連鎖の基になっていて、これを最大限に活用して生かすものでないといけない。

B. 身土不二＝地産地消

1907年、石塚左玄により地元の旬の玄米菜食が理想の食事だと提唱した食養会の原理が「身土不二」であった。有機農業の理念の一つであり、のちに「地産地消」と同じ意味として広がった。

C. 食べもの・いのち・土の危機

日本では有機農業のシェアはまだまだ少ない。また他国と比べて食料自給率は低く(39%)、フードマイレージ(食料の輸送距離)

は異常に高い。もし地域の大豆とアメリカアイオワ州輸入の大豆を比較したら、距離で言えば地域は輸入大豆の5000分の1に、排出CO₂なら400分の1に減る。日本は格別多くのエネルギーを使い、結果、多くのCO₂を排出していることになる。

有機JAS規格にも問題点がある。以前から利用、または他に安全なものがないという理由で油を搾るときに使うノルマルヘキサンが認められたり、大規模単作が認められたりしている。

水耕栽培は、工業製品・石油製品・肥料・資材・薬液・エネルギーなど負債の塊である。5年以上続いたところはなく、持続性は期待しにくい。

D. 有機農業から未来を設計する

1. 現代人類の未曾有の危機は5つの間違ったドグマ(固定観念)の結果である。

①GDP(所得)の信仰 ②工業、IT・AI産業の賛美 ③生産性向上の礼賛 ④自由貿易と広域統合への信奉 ⑤官僚制と国家の肥大化

2. スモール・イズ・ビューティフル(小国寡民)

企業・国家・経済空間など社会組織の安定的充実のためには、規模の限界を知ることが必要である。

地域自給の根本哲学は2000年前に語られている(『老子』第80章「小国寡民」)。日本で言えば、合併前の集落規模の地域自給や自治を徹底的に尊重すること。

3. 結論に代えて

このように有機農業の意義と可能性は環境や農業だけでなく、他産業や経済面以外の人間関係や社会・文化の領域に及んで追求していく必要がある。

(鶴甲団地G 飛田 みえ子)

42 回目の収穫感謝祭が無事終わりました。天気に恵まれた 16 日、朝早くから会員が次々集まり、年齢を忘れて準備を進めました。遠くから（影山さんは朝 2 時に起きられたそう）生産者の方々も来てくださって、マルシェが開かれました。

集まった感想の一部を紹介します。

* フランシス大和さんのコンサートが楽しかった。 * 生産者の声を聞く時間もほしい。 * 収穫祭は想像以上に楽しかった。生産者と直接話せるのもよかったし、喫茶室（ケーキがおいしいと評判）があるのも一息つけてよかった。

* 知らないことも知ることができ、あっという間に時間がすぎた。 * 喫茶やお茶席の看板を大きくしたほうがよい。

* みそ汁がおいしかった。 * マルシェでも即売でもよく売れた。 * 今年は大きな冬瓜を主演にしつらえを考えた。 * お茶席ではお客さんとお点前を楽しむことができ、我が家のすだちをふるまえたこと感謝します。 * 売り場が隣同士だった葉香製茶の辰巳さんと「あしの会」の奥谷さんが、お茶を勧めたり、牛乳をあげたりされていた。

感謝祭で嬉しいことは、おいしいものを味わいながら、あちこちで話の輪ができることです。去年から参加人数を数えています。会員外の人参加が増えています。嬉しいことですが、事情が許せば会員の参加も増えてほしいです。参加して下さった生産者の方々、会員の皆さん、ありがとうございました。生産者の方々からいろいろお心遣いをいただきました。感謝です。



（西山町G 岡 和美）

市有研との 10 月の定例会議

2019・10・25

参加者＝市有研：一色さん、橋本慶子さん

求める会：飛田、岩本、西、高橋、小浦

10 月の定例会議は、10 月 25 日（金）に行いました。午後に青垣町の足立さん訪問の予定があり、午前の話し合いになりました。

お盆期間中の個配配送の問題点を話し合ったり、現在の畑の状態の説明を受けました。今年は夏野菜が長く育ち、端境期を持つことなく出荷出来たが、半面、雨が多く、高温多湿で大量の虫の発生で苦労しているとのことでした。

野菜の表面のあばたは虫がつくことによって出来るそうです。苦情野菜の報告や対策、冬野菜の特注品の選定などを話し合いました。

（鶴甲団地G 小浦 節子）

生産者訪問 卵の生産者・足立さんとの話し合い

青垣町の卵の生産者、足立修さんをお訪ねしました。足立さんから卵をいただいて 27 年、市有研の卵が足りない時は無理を言って不足分を出していただいています。

以前、求める会で鶏舎を見学させていただいてから久しぶりの青垣町で、足立さんも町会議員を辞められ、当時 5000 羽以上いた鶏も今は 2000 羽に縮小されていました。

現在 72 歳になられ、奥様と一緒に鶏を飼う生活だけになっているそうです。当時から納豆菌を餌に混ぜ、鶏の病気を防ぐ体力作りを熱心にされていましたが、今もずっと続けておられるそうです。

今後求める会から離れても個人で宅配されているので、ファックスで注文したら送ってくださるそうです。配送費が高つくため、50 個、80 個、120 個とまとめて送るための、しっかりしたパックも用意されているそうです。

（ジェームス山G 高橋 京子）

秋の地域集会報告～テーマは求める会の今後のこと、収穫感謝祭

兵庫・長田・北区地域 10月21日（月）、神戸市立湊山地域福祉センター

参加者：前川、陶木（以上夢野町）、岡（西山町）、岡本（下山手）、明松、福島、稲井、門間、金山、花岡（以上都由乃町）
飛田（鶴甲団地、副代表）＝計11名



・飛田さんから「これからの求める会をどうするか」について、
① お金が続くまで続ける ②運動体だけを残し共同購入部（実務部）はとじる ③止めると決めた時にすべて終了する—の三案をきいた。会員の減少が加速している求める会をどうするか、来年の総会までに情報を集め、これからの方針をだしていきたい。いまは、生産者を訪問し、話し合っているところなんですということを聞きました。これに対して、求める会は運動体として残して欲しい（例、ゲノムなどの署名運動）、私達は求める会という運動体があってこそ、世の中の動きを知ってきた思いがある—などの意見が出ました。

- ・収穫感謝祭のお手伝い、協力の話があった。
- ・影山製油所からのクラウドファンディングの協力依頼についての説明を聞きました。私達のグループはまだ申し込みの用紙が届いてなかったのだが、先に説明を聞いて良かったかもしれません。ニュースが届いた時に考える下地が出来たような気がします。
- ・後は各グループの近況報告などをしました。 （都由乃町G 花岡 桂子）

宝塚地域 10月29日（火）、宝塚教会会議室

参加者：多胡、魚井、信長、大森、福井、田中、稲川、浦上（以上逆瀬川、）児玉（売布）
今田（亀井町）、岡（西山町、会員担当）、岩本（松浜、副代表）＝計12名
会員担当の岡さんから、収穫感謝祭のお手伝い、即売品づくりの依頼、副代表の岩本さんからは、影山製油所の資金集めのためのクラウドファンディングについての説明と協力依頼がありました。

求める会の今後についての話し合いでは、会の活動を閉めるのはもったいないが、続けるのは難しい、共同購入をいったん閉じて、その後に身の丈にあった新たな活動を組織していけばいい、求める会はいいい仕事をしてきたと思うが、40年前と今とは変わっている、同じことを若い人に求めるのは無理、などの意見が出ました。

逆瀬川グループは、この1年、高齢、病気、死亡など、やむを得ない理由で会員が激減、1年前には12、3個あったコンテナが、現在は5、6個に半減しているという状況です。

（亀田町G 今田 裕子）

東灘・灘・中央地域 10月30日（水）、神戸学生青年センター 会議室D

参加者：小浦、飛田（以上鶴甲団地）、茂松、岩花、岡部（以上センター）、福本（本一）、吉川、三浦（以上青谷）、山崎（赤松町）、山下（御影山手）、松島（藤原台）、明松（都由乃町、会員担当）、岡（西山町、会員担当）＝計13名

収穫感謝祭、影山製油所のクラウドファンディングの説明と協力依頼のあと、求める会の今後について、皆さんの本音を聞かせてもらいました。

物流の部分はずし運動体として会を存続、資金が続く限りやる、会を閉めて後新しく何かを始める—の案に対して出た主な意見は次のとおり。

○お金の続く限りと言うが世話人として働き続けられる人がいるのか？ ○ただただ続けるよりエネルギーのあるうちに区切りをつけるのがよい。○運動体のみ残すのには反対。皆

で集まり、負担の少ないグループ活動、人間関係を続けていきたい。○世話人の負担が大きく続けるのは難しい。お金の問題もきちんとする必要がある。○体、頭が働くときに会を整理するべき。一度整理した後に何かを始めるのがよい。○生産者に対して早めに状況を知らせる必要がある。何らかの形で会ができて、有機農業を頭に残しての会になってほしい。
(センターG 岡部 真理子)

尼崎・西宮・芦屋地域 10月31日(木)、西宮市男女共同参画センター414号

参加者：木下(広田町)、西(武庫之荘)、岩本、東山、尾園(以上松浜)、杉山(センター) 岡部(センター、会員担当) =計7名

尼崎、西宮、芦屋地域の秋の地域集会は、西宮北口の男女共同参画センターにおいて行われた。とても気持ちの良いお天気で、私杉山は芦屋の自宅から30分かけて自転車で駆け付けた。良い運動になりましたね。

まずは、求める会の将来をどうするかについて話し合われた。それぞれの生産者を訪問し、求める会が今の形で存続できない場合の方策について話し合ったことの報告があった。また個々の会員として、どのような会の終活の仕方を望むかという意見が出された。

さらに影山製油所のクラウドファンディングについて、その意図、参加方法などの説明がなされた。多くの参加者と資金が集まると良いと思う。

次に、11月16日の収穫感謝祭について話し合われた。私以外の参加者は世話人として活動されている方ばかりで、いつもお世話になっている。ただのヒラ会員は私だけのようだ。普段何も会の役に立つことをしていないので、感謝祭の時くらい少しはお手伝いしようと思う。フランス大和さんのコンサートも楽しみだ。

感謝祭の担当と集合時刻を確認して、少しガーデンズを覗いたあと、また自転車で西宮北口を後にした。あと何回、収穫感謝祭ができるのかな。今回の感謝祭が成功しますように。

(芦屋呉川町 センターG 杉山 はるみ)

須磨・垂水・明石・加古川・高砂地域 11月2日(土) アスピア明石 学習室 704B

参加者：小島(西落合)、庄谷、村川(以上大久保)、六渡(東仲ノ町)、高橋(ジェームス山)、嶋野(朝霧)、藤原(高砂)、田中(北須磨C)、小倉、加藤(以上つつじが丘)、野沢(月見山本町)、大西(竜七)、中島(北須磨B)、小原(加古川東)、明松(都由乃町、会員担当)、飛田(鶴甲団地、副代表) =計16名

求める会の今後について、飛田さんから皆さんの本音を聞きたいということで、①特別会計800万円が続く限りは続ける ②求める会の物流は切り離して、運動体の部分だけ残す。物流の部分はあしの会にお願いする ③いったん閉じて、改めて運動体を立ち上げる、の三つの選択肢から選ぶとすれば、どの形で区切りをつけるのがよいか、出席者のご意見を順番に聞きました。

品物は欲しい、人間関係のつながりや運動体としての求める会を残したい、発信は必要、運動体のニュースも欲しい等さまざまな意見を含め、大半の人が②に賛成。実際その方向に今進んでいると思います。

個人的には、西の方の配送はどうなるのか、運動体だけの求める会に果たしてどれだけの人が参加するのか等、なかなか今後の求める会のイメージが湧いてこないのですが、皆さんの求める会を続けたい気持ちや、新しいことに対する意欲がとても大きいと感じました。

収穫感謝祭の働きと、影山製油所のクラウドファンディングのお願いがあり、その後閉会しました。
(加古川東G 小原 恵子)



12月のカレンダー



- 12月11日(水) 部会
 12月18日(水) 全体会
 12月20日(金) 自動引落とし日

共同購取中心 篠原 啓

影山製油所のクラウドファンディングの協力金について

11月20日(水)に申込を締切りました。合計金額 37万円 でした。多くの方々のご協力ありがとうございました。

年末年始の配送予定

野菜 12/30~1/5 休み

牛乳

- ・あしの会配送グループ
12/30~1/5 休み
- ・デルタス青山配送グループ
12/31~1/5 休み
- ・鎌田商店配送グループ
12/31~1/5 休み
- ・配送センター配送グループ
1/1~1/3 休み

豚肉

- ・火曜コース 1/21
- ・木曜コース 1/2→1/9
- ・金曜コース 1/10→1/17

牛肉

- ・火曜コース 1/7
- ・木曜コース 1/16
- ・金曜コース 1/3→1/10

ゲノム編集の講演会

名称：有機農業のつどい（仮称）
 日時：2020年1月18日（土）13：30～
 講師：天笠 啓祐さん
 場所：ラッセホール（元町北）
 参加費：500円

12月全体会議題

1. 会の今後に向けての具体的な動きについて
2. ゲノム編集についての講演会について

食料環境セミナー

「東遊園地ファーマーズマーケットから
 広がる新たな農的つながり」
 2020年1月22日（水）10：30～12：00
 講師：イートローカルコウベ ファーマーズ
 マーケット主催 小泉 亜由美さん
 会場：神戸学生青年センター
 参加費：600円
 主催：（公財）神戸学生青年センター

♡11月16日（土）の収穫感謝祭に参加いただきました生産者の皆さま、お手伝いいただいた会員の皆さまありがとうございました。

2019収穫感謝祭会計報告

		(円)	
収入		支出	
弁当	70,600	弁当	88,000
味噌汁	9,300	味噌汁	4,190
おにぎり・卵	9,323	米・卵・大豆	4,822
ケーキ・総菜	45,981	ケーキ・総菜	4,900
喫茶	31,600	喫茶	2,584
お茶席	9,000	お茶席	1,654
果物	38,550	果物	37,300
みかんジュース	3,600		
小豆	7,000	小豆	6,400
学習研究	1,200	学習研究	3,259
フランクフルト	9,000	フランクフルト	6,330
影山さんの油	22,500	油代	19,980
事業部出店料	20,000	会場費	41,525
陶器出店料	3,000	チラシ・シール	6,669
カンパ	5,000	紙コップ・雑貨・他	3,496
品物でも沢山カンパして頂きました		コンサートお礼	10,000
		イベント保険料	4,620
収入合計	285,654	支出合計	245,729
		差引残高	39,925

ニュース970号1面の題字の部分が10月号となっていましたが、11月号の誤りです。お詫びして訂正いたします。